

## 日本作物学会九州支部会報原稿作成要領

(2007年 8月 28日 改正)

### 1. 原稿用紙・入力

- 1) A4版の用紙を用い，上下左右に3cmの余白をとる．
- 2) 和文本文中は原則として全角の書体とする．句読点は“．，”とし，“。、”は使用しない．アルファベット，数字はすべて半角とする．
- 3) ゴシック，イタリック，スモールキャピタルおよび上つきなどを用いた印刷はせず，それぞれ ~~~~~，\_\_\_\_\_，=====，∨などと原稿に赤で記入して活字指定する．

### 2. 原稿の順序

- 1) 表題，著者名，所属機関名の後に英語で表題，著者名などを記載例のように書き，キーワードを五十音順で5語以内でつける．緒言(緒言の見出しは省略する)，材料と方法，結果，考察(結果と考察)，摘要，謝辞，引用文献の順に書き，図および表を添える．

記載例

ビール大麦系統「九州二条16号」の早播適応性について

馬場 孝秀<sup>1),2)</sup>・甲斐 浩臣<sup>1)</sup>・塚崎 守啓<sup>1)</sup>・古庄 雅彦<sup>1)</sup>\*  
(1) 福岡県農業総合試験場・2) 中央農研北陸研)

Early seeding adaptability of barley line “Kyushu Nijo 16”

Takahide BABA<sup>1),2)</sup>, Hiroomi KAI<sup>1)</sup>, Morihiro TSUKAZAKI<sup>1)</sup> and Masahiko FURUSHO<sup>1)</sup>  
(1) Fukuoka Agric. Res. Cent., 2) Hokuriku Res. Cent. NARC.)

\*連絡責任者：fukutarou@pref.hakata.jp

キーワード：外観品質，側面裂皮粒，播種適期，早播適応性，ビール大麦

3. 原稿はワードプロセッサを使用し，1行36文字，1頁24行で印刷する(原稿3枚がおおむね2600字，刷り上がりの1ページ分)．文章はなるべく新かなづかいと常用漢字を用い，学術用語は原則として作物学会用語集に従う．また，暦年は西暦を使用する．

### 4. 引用文献

- 1) 記載順序は筆頭著者の姓のアルファベット順とする．同一筆頭著者(単独名を含む)のものは年次順とする．同一筆頭著者で同一年次のものは年次の後にa, bなどを付す．
- 2) 和文文献では姓と名の間を開けない．英文文献では姓以外はイニシャルにする．同一著者，表題が続くときでも略さない．

3)本文中の文献引用形式は、例えば、(松江ら 1991, Aliら 1997)のようにする。

記載例

松江勇次・水田一枝・古野久美・吉田智彦□1991. □北部九州産米の食味に関する研究. □第1報□移植時期, 倒伏の時期が米の食味および理化学的特性に及ぼす影響. □日作紀 □60:490-496. (2行目を1文字下げない)

Ali, □M., □T. □Horiuchi□and□S. □Miyagawa□1997. □Nodulation, nitrogen fixation and growth of soybean plants□(Glycine□max.□Merr.)□in soil supplemented with chitin or chitosan. □Jpn. □J. □Crop Sci. □66:100-107.

以上の□は半角のスペース, 必要なときは活字指定する)

マクシーモフ, N.A. 1952. 植物と水. 野口弥吉監修. 川田信一郎他共訳, 1959.

刀江書院, 東京. 35-73. (頁数は引用箇所を示す)

Monteith, J.L. 1962. In Evans L.T. ed., Environmental Control of Plant Growth. Academic Press, New York. 95-200. (頁数は引用箇所を示す)

Snedecor, G.W. 1961. Statistical Methods. Iowa State Univ. Press, Iowa. 13-30. (頁数は引用箇所を示す)

## 5. 図表

1)図表の原図は1枚ずつ別紙に作成し, 図では縦・横軸の説明, 凡例も含めて直ちに製版できるように作成する. 図表中の文字・数字は明朝体とし, 図を囲む枠はつけない. 表題と注はフロッピー・CD-R等から入力して印刷するが, 原図中には記入しておく. 原図の大きさは刷上り寸法の2倍(文字の大きさも含む)にすることが望ましい. 線の太さ, ×, ●などの記号の大きさ, 目盛りの長さなどに留意すること. なお, 写真の場合はLサイズで可. 図の番号は第○図(写真も第○図で通す), 表の番号は第○表と書く. 表は横線のみを使用する.

2)図表の表題, 図の縦・横軸の説明は和文とする. 図表の表題には最後に“.”を付す. 縦軸の説明は軸に沿って下から上へ横書きする.

3)図表の内容の説明や注に使用する記号は半角の“\*, \*\*, #, 1), 2)・・・”などとする. 図では表題に引き続き, 表では表の下に記載し, 最後に“.”を付す. その場合“注)”と記さなくてよい.

4)図・表とも余白に第○図, 第○表, 縮尺, 著者名を記入する.

6. 表, 図および写真の挿入箇所は, 本文用紙の右端に赤字で指定する.

## 7. フロッピーディスク, CD-R 等

1)MS-DOSフォーマットをした3.5インチフロッピーディスク等の記憶媒体を用い, 本文をテキストファイルで保存する. また, 図表のファイルも保存する. 1原稿につき1記憶媒体とし, 記憶媒体上には著者名と論文表題を明記する.